

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 5月12日

【評価実施概要】

事業所番号	0390100048
法人名	株式会社 サンメディカル
事業所名	グループホーム サンパーク 笑う門
所在地	岩手県盛岡市門一丁目15-27 (電話) 019-604-9772

評価機関名	財団法人 岩手県長寿社会振興財団		
所在地	盛岡市本町通三丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター3F		
訪問調査日	平成20年3月19日	評価確定日	5月12日

【情報提供票より】(20年2月12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18 年 6 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 7人, 非常勤 2人, 常勤換算	7.9人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り		
	1階建ての	1階 ~	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	52,170 円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要(2月12日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名	
要介護1	-	名	要介護2	2	名	
要介護3	7	名	要介護4	-	名	
要介護5	-	名	要支援2	-	名	
年齢	平均	82.7歳	最低	73歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	岡田消化器内科医院、小泉歯科医院、白倉歯科医院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

北上川東岸県道396号線東側の閑静な住宅街に立地し、隣接して大きめの児童公園がある。同法人のデイサービス施設とも隣接している。利用者は現在のところ介護度が低いこともあり、落ち着いた、穏やかな生活を送っているように見受けられた。介護するスタッフも一生懸命職務に専念している様子がうかがうことができた。地域との連携もよく図られ、防災、徘徊時などでも協力的である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域密着型を強調することとし、内容も平易な用語を使い、書の得意な職員に大きな文字で書いてもらい掲示するように改善されている。また、家族会の結成を除き他の項目については改善の方向にあり、各書式も独自に作成されたものに記入し、成果をあげている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価を全員で行い、外部評価の結果を踏まえて、職員全員で話し合い前向きに改善に取り組んでいる。1例として、書式の改善では、センター方式を参考にして独自のシートを作り、活用している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	看取りへの対応、地域との連携のあり方などが話題になっている。結果として家族の要望が強い場合は受け入れて行くこととしている。また、もっと地域の情報を収集して、地域と強く結びついた事業所を目指していくこととしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情と思われる内容のものは無いと理解している。相談、意見は家族の来所時や電話等で寄せられた時は、丁寧に対応するように心がけ、改善できるものはすぐ改善するようにしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:3)
	広報誌はプライバシーに配慮して、配布は家族のみとしている。現在は地域の童謡サークルなどのボランティア受け入れ等にとどまっているが、もっと地域からの協力体制を整えるためにも、どんどん受け入れていきたい考えである。地域の催し物などにも積極的に関わるように構想中である。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念を見直し、2月の職員会議全員で地域密着型に合致した理念を掲げるようにした。その中で特に、押し付けでない、柔軟な支援をすることを柱に置くようにした。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者や家族が困っている事案が発生した時や職員がどのように対応すればいいかなどの悩み等が発生した時は、理念に戻り、話し合い意見の統一を図り、対応するようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム通信は、家族のみに配布している。児童公園の清掃、資源回収に協力、地区文化祭に出品したりと地域への交流の輪を広げている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ケアプランの作成にあたっては、センター方式を参考にして独自の書式(シート)を作成し、使用している。自己評価を全員で行い、外部評価の結果を踏まえて、改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	6、7人のメンバーで2ヶ月ごとに開催している。今後はメンバーを増やし、各方面からの助言をいただけるように工夫したいと考えている。今までは、報告事項が多かったが、今後は、現在取り組んでいる内容についても、例えば看取りのことなどを含めて意見をもらうようにしたいと考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所、福祉事務所との連携はあまりない。ホーム側から積極的に情報を提供し、行政の指導、助言を受けるようにすることが望ましいと思われる。	○	ホームを理解、援助してもらうためにも、行政との連携を密にしていきたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族にのみホーム通信を発行時に送付し、また金銭管理出納簿のコピー、受領書等を家族の来所時や郵送により、随時報告している。体調の変化等は、随時電話にて報告し対応している。要望も相談として取り上げている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に投書箱を設置しているが利用はない。来所時や電話による相談、苦情受付記録がある。意見、要望等に対しては速やかに職員でミーティングを行い、改善に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来5名の退職者があった。退職者が出たときは、「お嫁に行くんだって」などとお話し、動揺を起こさないように工夫をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県、ブロックのGH協会の研修会には、毎回数人の職員を参加させている。参加の復命、報告は出来るだけ職員全員に伝わるように工夫している。	○	他法人のグループホームとの交換研修や見学をすることにより、良いところを学んだり、自信につながることもなり、サービスの質の向上にもなると思われるので、計画することを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他法人の施設見学、運営推進会議の見学等する中で、自らの事業所のサービスの質の向上になるように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に先立って、本人・家族にグループホームに来ていただき、見学して頂いて、また十分な説明のもとに入居していただくようにしている。利用開始後帰宅願望が現れたときは、時間をかけて家族と連携し、安心して生活できるよう望ましい雰囲気作りに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の中には自分からでなく、「誘われる」ことを待っている方もあり、職員は雰囲気を察知して素早く対応出来るようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	現在の利用者は全員が食べることが好きな方々で、昼食のメニューはできるだけ希望を取り入れるように配慮されている。また、介護予防、進行予防を考えて、会話や歌唱を多く取り入れるような仕組みづくりに努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意向はもとより、家族の思いを大切にケアプランを作成し、情報の裏側に隠されたものを見通せる介護に配慮している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員が日々観察し記録している利用者の状況変化を随時出し合い、本人、家族が満足のいくような介護計画が立てられるように随時見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院への通院は原則家族によって行うとしているが、家族の都合によりできない場合は 同法人デイサービスの移送サービスの介護士に行ってもらうなど、多機能性を活かした連携を図るようにしている。また、職員間で多機能性について話し合いを行い、意識の統一を図っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設利用前のかかりつけ医に継続受診できるように配慮している。受診時には家族と情報の交換を細やかにし、その結果をサービスに活かすようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族には医療連携開始時にターミナルについて説明をし、同意を得ている。職員間で話し合いを重ねて、共通理解がなされている。入院時には退所させられるという家族の不安を解消するため、60日間居室確保の体制をとっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に関わる書類は事務室のロッカーに保管をしている。利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応に心がけている。施設の広報誌の配布も家族に限るようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々の思いや希望を優先に考え、ホームとしての1日の流れはあるが、強制はせず、声かけで様子を見るようにしている。帰宅願望には、本人の行動に付き添い、見守りをする中でその排除に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食のメニュー、特に昼食は利用者の希望を取り入れるようにしている。調理、後片付け等はできるだけ利用者が参加できるようにし、丸いテーブルを囲んで職員も同席して、楽しみながら食事ができる様子を見ることが出来た。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月、火、木、金のうち、週2回は入浴できるようにしている。夏場は希望により入浴回数を増やし、またシャワー浴もできるようにしている。入浴を億劫がるときは、促しはするが、強制はしない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者により、それぞれ縫い物、編み物が得意の方、童謡を歌うことが好きな方など、趣味・特技が多様であるが、それぞれ自由に時間を過ごせるように支援している。また、一緒に家事を行ったときなどにも、感謝の言葉掛けをすることを大切にしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の買出しの時や日用品の買い物には声がけをし、希望者は同行してもらおうようにし、できるだけ施設内に閉じこもらないよう工夫している。調査当日、たまたま乳酸菌飲料の訪問販売員がきていたが、買い物をしている姿を見ることができた。暖かくなると、隣接する児童公園等への散歩する方も多くなる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	不審者侵入防止の目的もあり夜間は施錠をしている。職員の見守り、気配りで利用者の動向を絶えず把握するように心がけている。過去に、エスケープがあり警察の協力により無事であったが、以後情報を提供して協力を依頼し、安全の確保に努めている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署立会いの防火訓練、避難訓練を隣接するデイサービスと合同で実施している。自主訓練は月1回実施している。	○	色々な状況を想定して訓練を考えて欲しいと思われる。非常物品は水以外の物の用意も望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー・栄養バランスについては、福祉関係関連施設の栄養士が献立表のチェックを行ない指導助言を得ている。持病による食事制限等についても配慮されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	折り鶴の貼った文字の飾り付けをしたり、手作りの温か味のある居場所作りを心がけている。畳やソファがあり、思い思いの場所でゆったりと過ごすことができるように工夫されている。施設内の温度・湿度の管理も行き届いている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室にはテレビ、エアコン、オルガン等々が持ち込まれている。アルバム・家族の写真は殆んどの方が飾っている。入り口の暖簾(のれん)は、それぞれの好みのものを掛けている。		